

研究主題：自他のよさを認め、主体的に未来を切り拓く集団づくり
 -特別活動を軸にした学力向上のための基盤づくりをめざして-

◆ 本校の課題

- 全国学力・学習状況調査から見られる基礎学力の定着不足
- 難しいと感じる学習内容に対して、挑戦する意欲が低下する生徒が多い

◆ 研究仮説

本校の「学級力向上プロジェクト」によって培われたあたたかな集団づくりと、課題解決学習のサイクルの実践を通じて、生徒が「できた・わかった」と学ぶ楽しさを実感する機会が増え、学習に向かう意欲を高めていくことができるのではないかと。

◆ 実践内容

(1) 教育活動での課題解決型学習のサイクルの実践

- ・ 特別活動の視点を取り入れた本校の課題解決型学習（「学級力向上プロジェクト」）を様々な教育活動場面で実践する。これにより、生徒自身が課題意識をもち、課題を解決する能力を育むことをめざす。
 (①課題の発見 ②協働的な学び ③振り返り ④新たな課題発見と見通し)
- ・ 課題解決型学習のサイクルを取り入れた教科指導の推進
 (ICT 機器などを活用した生徒の振り返りをもとに、教師の授業改善にもつなげる。)
- ・ 学級会、生徒会を中心とした学校行事や専門委員会活動、地域でのボランティア活動の推進

(2) 「学び合いタイム」を活用した、学習する楽しさとわかる経験

- ・ 今年度から、テスト期間に「学び合いタイム」を教育課程上に位置づけ、実践した。より身近な生徒が教えることで、学習が苦手な生徒は「わかった」「できた」と実感でき、教える側も友人に教えることで自らの理解を深めることを目的としている。
- ・ あたたかな集団が基盤となり、通常授業での個別最適な学びや協働的な学びの継続、生徒同士が聞き合う、教え合う「学び合いタイム」の実践により、生徒はわかる喜びの経験が積み重なる。これにより、学習意欲の向上や学習習慣の定着、学力の向上をめざす。

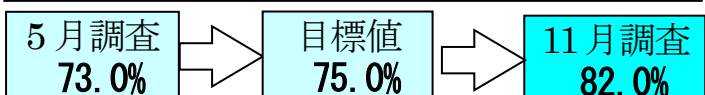


◆ 成果と課題(本校で実施した独自の授業アンケート結果から)

(項目) 授業の中で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。



(項目) 授業で友人との交流を通じて、次への学習意欲につながりましたか。



(項目) 授業で友だちとの交流を通じて学習内容が理解できましたか？(①はいのみ)



「学級力向上プロジェクト」や「学び合いタイム」の実施によって、日頃から意見を交流させ、周りとは協力して学びに向かう、あたたかな集団づくりが整ってきた。そのため、「自分の考えを広げたり、深めたりすること」や、「次への学習意欲につながった」と肯定的な回答をした生徒が増えている。その一方、「交流を通じて学習内容が理解できた」と感じる生徒が下がっている。学習が進むにつれて難易度が上がっていることが一因と考えるため、深い学びにつなげるための方策について研究を続ける。また、振り返りや家庭学習についても検討し、基礎・基本となる知識・技能の定着を図り、学力向上に向けた基盤づくりをめざす。